

彩の国バリアフリー協会だより 第6号

広報誌発行にあたり

彩の国バリアフリー協会会長
戸井田秀明



昨今の厳しい時代でも、その大きなパワーで未来を明るく光にすることが出来るように思います。そして、魅力ある協会にしていきたいように。

皆様の多大なる御協力と御参加を心よりお待ちしております。

バリ協

二十一年度終了〜！

総務部担当・副会長
佐藤啓智



日頃より当協会の活動に深い御理解と御協力を賜り、心より御礼を申し上げます。平成二十一年度におきましても講演会や視察研修会、又いきいきフェスティバルの参加や施設見学会等、いくつかの企画を行ってまいりました。

御参加いただいた会員の皆様、並びに御協力いただいた関係各位の皆様、重ねて御礼申し上げます。当協会は、すぐれた技術を持つ人々、又、高い才能や資格を持つ人々が数多く集まっています。それぞれのコミュニケーションを高め、団結することにより、想像以上の大きなパワーが生まれる可能性があります。それが大だと考えられます。

初めての副会長職をやつと一年間やり遂げました。総務部として縁の下の方持ちのな部会と簡単に考えていたのですが、色々用事がありましたね（ではなく自分で作ってしまうのですが）。前向きにやらないとせっかくカレッジを受講した会員皆様に失礼ですよ。よっしゃ〜二十一年度は



ロタマークエント

何でも良いです、楽しく身に付くことをやりましょう。

腰入れて頑張りますよ。

「楽しくやらなくては意味がない」って、私が所属している建築士事務所協会の前川口支部長が言っていたのが、急に脳裏を横切り、二十一年度はその方向で総務部・頑張ってみようと思えますので乞うご期待下さい。又、会員からの研修会等・希望のアンケートを実施しようと思えますし、バリ協がどのような方向に向かった方が良いかの意見もお聞かせ下さい。

文化情報のバリア・意識のバリア)を表しています。それらを超えることを目指した曲線を加えてロゴとしました。

(稲垣 雄二 記)

わがまち川越!

観光ユニバーサルデザイン

平成二十一年十月二十九日

彩の国人にやさしい建物づくり連絡協議会・イベント部会が主催し、建築士事務所協会が企画、当会としては実施協力として十月二十九日に参加しました。

今回は前年のイオンモールと異なり屋外に出てまち歩き(しかも歴史のまち川越)となり、東洋大学の高橋教授と学生の参加も得ました。

スタートは鏡山酒造跡地・大正蔵でもふんいきのある良い会場でした。

最初にオリエンテーションを行い、昼食をはさんだまち歩きに出発、会場に戻ってから班別ワークショップ、各班発表、高橋教授による講評の順に行われました。

会場(鏡山酒造跡地・大正蔵)



まち歩き



ワークショップ



ワークショップ発表



東洋大学 高橋教授の講評



最後に東洋大学・高橋儀平教授より、全体総括の講評と感想をいただきました。

このイベントの報告書をまとめていただいた当会の高杉理事の報告から以下引用抜粋します。(紙面の都合で一部省略しております。ご容赦下さい)

高杉理事



各班発表内容の総括と当事者の方々の気づきとして、(高橋儀平教授総括)
 ○雰囲気も良く優れた工夫アイデアとして取り上げられた店の前の木製スロープ！段差があっても、その場ですぐ段差を解消できるものがあるれば、常時のものでもなくても店前に立てかけてあれば使えるんですね！
 ○バリアフリーがあっても、魅力のあるまちはまたきたくなる。それは段差があっても担ぎあげてもらってもすべてOKであり、バリアフリーが消える？
 ○人によって、障害の度合いによって使い勝手は違うこと、古い基準でつくったトイレ等施設では、使いにくい場合が多く改良の余地があること
 ○人と人との絆を深め、人と触れ合う楽しみがある処が、魅力のあるまちとなりうること！
 ユニバーサルデザインとは能力エコーなのだそうです、その意味は？
 高橋先生曰く『手伝ってもらわなくても、使用する、行う能力が少なくても良い、簡単にできるように、改めて介助(サポート)しなくても大丈夫な施設設備づくりをめざすことである。』

彩の国

いきいき フェスティバル

平成二十一年十一月三日

伊奈町

埼玉県民活動総合センター

平成二十一年十一月三日

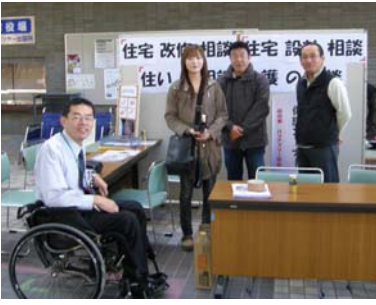
(文化の日)「彩の国いきいきフェスティバル」の催しに、彩の国バリアフリー協会として参加しました。

当会としては昨年に引き続き2度目ですが、昨年と同様車椅子体験・バリアフリー住宅改修相談会をおこないました。

武田副会長作看板



準備中のスタッフ



昨年同様人気の車椅子体験



介護老人保健施設

あさがお

見学会

平成二十二年二月六日

広報担当理事

金子 保

平成二十二年二月六日(土)に、五名の会員の方に参加していただき、見学会を開催いたしました。

「あさがお」は、さいたま市郊外の緑の多い地域にあり、昨年夏からは、施設の近くにある市営公園にて花火大会も開催されるようになり、利用者の方々に対して、とても環境の良い施設となつていくようになります。

また、施設づくりのコンセプトとして「地域と共生する、人と環境にやさしい介護施設」ということを掲げ、安全性・環境性・経済性に優れたオール電化施設とすることで、利用者やそのご家族、そしてスタッフからも好評だ

とのことでした。

施設全景



見学中



さらに、インフルエンザ等の対策として全館に加湿設備を設置したり、「在宅感覚で過ごしてほしい」との施設側の配慮が至る所に見受けられたりと、参加者全員が非常に参考になる見学会となつたと思っております。

加湿器



最後に、通常は見学会を開催していません。また、M条例は届出の義務はありますが確認申請では審査されません。ところがM条例の方がB条例よりも厳しいものがあるのに気づきました。二〇〇㎡以上の老人ホームの場合エレベーターのかごの幅はB条例では規制されないのにM条例では一四〇cm以上でなければなりません。なお、会員の中にB条例で一四〇cm以上と指導を受けたという方もいます。このような例がありましたら編集後記内の宛先までお知らせ下さい。今後このコーナーで取り上げ情報発信したいと思っております。

にも関わらず、今回の開催にご協力いただいた施設の方々と東京電力のご担当の方に、「ここで御礼申し上げます。

二十一年度総会報告

昨年六月三日に開催された総会では二十一年度の事業・決算報告、二十一年度の事業・予算、役員数に関する会則改正、役員の改正が慎重審議の末承認された。

戸井田会長に替わつてはじめての総会であった。

また、同時に開催された講演会は「埼玉県建築物バリアフリー条例と同福祉のまちづくり条例の解説」でCPDがつくこともあり会場が満員となった。

バリアフリー

関係法規のハテナ？

昨年からバリアフリー法が施行され、埼玉県バリアフリー条例(以下B条例)も建築確認申請等の審査事項となりました。もう一方「まちづくり条例(以下M条例)施行規則」も改正されましたが、B条例とは微妙に異なっていたいゆるダブルスタンダードになっています。この二つはもともと成り立ちが異なっており、所管も建築安全課と福祉政策課とにわかれて

エレベーターのかごの幅

	多数の者/ 主として高齢者、障害者等が利用		不特定かつ多数の者が利用	
	2000㎡未満	2000㎡以上	2000㎡未満	2000㎡以上
B条例	—	—	—	140cm以上
M条例	90cm以上	140cm以上	90cm以上	140cm以上

バリアフリー関連の記事から

（記事の続きを読みたい方はタイトルをインターネットで検索してお読み下さい、読めないものもあります）

働きたい者には等しく機会を与える。障害者集団、スウェーデン・サムハルの驚愕

スウェーデン、ストックホルムの中心に驚くべき企業があった。それは、サムハル(Samhalla)。
従業員2万2000人、収入868億円の大企業である。だが、サムハルには普通の企業と違うところが1つだけある。それは従業員の構成だ。実は、この会社では従業員の90%は何らかの障害者を持っている。サムハルは障害者が働く障害者のための企業である。（日経ビジネスオンライン）

全盲者に「見えた」とさげばせた！視覚代行機『オーディコ』開発者 菅野米蔵

ミラクル・テクノロジー”と評した外国メディアもあった。日本発の技術が、

世界に大きな反響を巻き起こした。“触らずにモノを認識する”視覚障害者用感覚代行機「AuxDeo(オーディコ)」だ。これまで視覚障害者、特に全盲者がモノを認識するには、じかに触ったり、白杖のようなもので探りながら行うしかなかった。

しかし、額に取り付けるオーディコは、カメラがとらえた映像をコンピュータで画像処理し、輪郭だけを取り出し、電気刺激にして額に表示する。“触らずに、わかる”ことは、視覚障害者にとって、とてつもない出来事なのだ。（リクナビNEXT）

高齢者の願いをかなえた「人生最後の靴」

高齢者向けの靴「あゆみ」を発売した1995年。徳武産業の社長、十河孝男はある女性から聞いた言葉が今も忘れられない。

「死ぬまでに赤い靴を履くのが夢だったが、それがなかった」。女性は水玉模様が入った赤い靴を見つめてうれしそうに言った。

筋力の衰えや病気などによって、普通の靴ではうまく歩けないという高齢者は多い。昔からリハビリ用の軽い靴はあったが、足にびったり合う靴になかなか巡り会えず、黒や茶など地味な色ばかり。もつと外に出たい、もつとおしゃれを楽しみたい――。そんな高齢者の切実な声に応えたのが「あゆみ」だ。



ケアシューズという新しい市場を切り開いた「あゆみ」は、今では年間50万足を販売する。だが、2代目社長十河孝男にとって、ここに至

る道は平坦ではなかった。（日経ビジネスオンライン）

暗闇ごはん

日常では体験することのできない真の暗闇。完全に視覚を奪われた中で、残された嗅覚、味覚、聴覚、触覚をフル回転させるためには、ものを食べるという行為が大いに効果的です。

浅草・緑泉寺で行われている月一度のイベント。

次世代自動車・心身状態に連動「脳トレ」川島教授ら、研究チーム

脳の動きを可視化して調べる「脳機能イメージング」研究の第一人者で、脳トレで知られる東北大の川島隆太教授らが、運転者の心身状態を把握する機能を備えた次世代の車の研究に乗り出した。トヨタ自動車が開発に関心を示しているといい、宮城県も加わり2010年代には実用化を目指すという。研究チームは、高齢ドライバーの事故防止や健康管理も図ろうと構想を練っている。

（毎日新聞）

神社でバリアフリー 祐徳稲荷神社に階段昇降機

佐賀県鹿島市の祐徳稲荷神社（鍋島朝倫宮司）が、山腹にある本殿と境内の神楽殿とを結ぶ渡り廊下に「いす式階段昇降機」を設置した。階段の端にレールを取り付け、いす式の昇降機が自動で上り下りする装置で、足の不自由な人の本殿参拝が便利になる。1日から運行を始める。



祐徳稲荷の本殿は境内から約18メートル上の山腹にあり、参拝客は表の石段を使うか、神楽殿からの渡り廊下を使って上がっていた。このため同神社は約1千万円をかけ、全長40メートルと11メートルの昇降機2基を導入した。階段が曲がっているため、一度踊り場で下りて乗り継ぎ形になる。

これまで足の不自由な参拝客はあきらめるか、介助者が担いで上っていたという。

（佐賀新聞）

2010.4.1

車いすにやさしい石畳に 嵐山公園砂利道を舗装



バリアフリー工事が進められている、京都市右京区の府立嵐山公園中之島地区でこのほど、石畳の歩道が完成した。公園内は砂利道で、地元の仕事者が車いす対応のトイレへ続く道の舗装を、強く要望していた。

1997年に市が地元自治会などの声を反映し、車いすにも対応したトイレ棟を公園に建てたが、車いす利用者から「介助がないとトイレまで行けない」ととまどいの声が上がっていた。土木事務所も「多くの人が訪れる観光地でもあり、何とかしたい」といけないという思いがあった」という。国名勝の地域のため、文化庁とも協議して石畳を採用した。

「トイレを作った以上、使いやすさを考えないといけない。一般の人にも歩きやすくなった」と完成を喜んで

（京都新聞2010.4.7）

佐賀・嬉野温泉

進むバリアフリー

心も温まる、人に優しい町

美肌の湯で知られる佐賀県嬉野市の嬉野温泉がバリアフリー化に取り組んでいる。こうした動きは全国の温泉郷や観光地に拡大中で、新たな顧客層獲得の道としても期待がかかる。

「もう無理かなと思って、いた温泉に母を連れて来られて、本当にいい時間でした」。佐賀県伊万里市の井之一行さん(64)らきょうだい3人は感慨深げだ。外出好きだった母親の静さん(88)は約1年半前に病気を患って車いす生活となり、老人施設で暮らす。久しぶりの温泉に「楽しかったし、お酒もおいしかった」とほほ笑んだ。温泉街入り口には情報センターを設置。スタッフが常駐し、観光客に情報などを提供する。「一人一人の要望に合わせた対応」(同センター嶋原哲也事務局長)をモットーに、目や足となって旅を支援する。

嬉野の取り組みは、先進的な三重県伊勢志摩の取り組みを視察したことが直接の契機となった。2005年、同県鳥羽市を中心とするエリア内で乗り捨てできる無

料貸し出し車いす「どこでもチエア」や、障害のある人々と自然に接するスタッフらを目の当たりにして「嬉野を日本一のバリアフリーの温泉街に」という熱意が広がった。

同様の取り組みは、松江や福島、神戸各市のほか、北海道知床や鳥取、熊本、沖縄各県などでも続々と広がっている。

(フジサンケイビジネスアイ

2010.4.3)

時計台2階 車いすで

リフト運用開始

札幌市中央区の観光名所の一つで、国の重要文化財(重文)の「札幌時計台」に車いす用リフト1基が設置された。車いすの身障者と付添者の2人乗りで、2階までの所要時間は約1分。8日から利用できる。



道教委によると、道内の重文の建造物の中で、エレベーターや昇降リフトを備えた例は初めてという。



時計台は木造2階建てで1878年(明治11年)建設。1970年に重文に指定された。

重文の建造物の改修には国との協議が必要で、市は慎重に設置を検討してきた。時計台は大正時代に東側に建築物を増設しており、市の有形文化財に指定されている。今回その階段横にリフトを設置することで了承を得た。段差解消や階段の手すり設置と合わせて事業費は約1500万円。

岡本征之館長は「車いすの人にも安心して2階を観光してもらえ」と話している。

(北海道新聞 2010.4.8)

発行者
彩の国バリアフリー協会
〒336-0031
さいたま市南区鹿手袋4-1-7
埼玉県産連会館
TEL 048-864-9313
FAX 048-864-9381

Heart to You
私は車いす駐車場に停めません
ステッカーを貼って頂くだけで参加出来る!!
キャンペーンに参加しませんか
※ステッカーは車の後部ガラスに貼って下さい

『私は車いす駐車場に停めません』と誓うキャンペーンを一昨年のイオンモール探検で知りました。健常者でありながらつい車椅子駐車場に停めてしまうマナーを守らない人もまだ多いようです。このキャンペーンは1枚100円の賛同協賛金で自分の車にステッカーを貼って参加する事が出来ます。ステッカーは県内イオン浦和美園S&Tイオンモール羽生の2箇所にあります。近くに同店のない方は、郵送またはメールでの申し込みが可能です。詳細は左記まで。
NPO法人 グリーンアップル 〒519-0165
三重県亀山市野村3-6-7
green@npo-apple.com

編集後記

情報を

お寄せ下さい。

ショッピングセンターで車椅子専用駐車場ではなく、高齢者専用駐車場を見つけました。



最近では妊婦用駐車場もできているようです。

バリアフリーもより肌理細やかにできてきていると実感します。

そういえば高齢者や弱視の方にも読みやすい大きな活字の文庫本や白黒反転の

書籍・グッズが最近出てきました。黒いまな板や黒い綿棒などは健常者にとつても使いやすいユニバーサルデザインです。



総会に間に合わせるため約十日間でつくった広報誌です。いたらぬ点はご容赦を。短い期間に記事を書いていただいた戸井田会長・佐藤副会長・金子理事に感謝。

また、バリアフリー関連法規についての疑問・ニュースその他ございましたら左記までお知らせ下さい。役立ち情報を発信し、この広報誌を会員の皆様との情報交換の場としたいと思います。

送って下さる場合はお名前・連絡先明記でお願いします。

(y_kinag@yhb.ne.jp

広報担当 稲垣)